

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-99	高等学校	地理歴史科	歴史総合	
※発行者の 番号・略号	※教科書の 番号・略号	※教科書名		
35・清水	歴総 705	私たちの歴史総合		

1 編修の基本方針

本書は、教育基本法第2条に示された教育の目標を達成するため、以下の基本方針に基づき編修されました。

① 教育基本法第2条第1号に関して

- ▶日本と世界の近現代に関する知識を身に付け、日本人あるいは地球市民としての教養とするとともに、その知識を生かして現代の社会を主体的に考察し、さまざまな事象と課題の真理を追求してよりよい未来を築くことができるよう、豊富な資料と平易な文章を用いて叙述しました。
- ▶人類共通の経験としての歴史を謙虚に学び多角的に考察する姿勢を重視し、公正な態度や道徳心を養うことができるよう配慮しました。また、生徒たちが主体となって学習活動を行えるよう問いを随所に配置し、情操面・身心における成長の促進にも資するものとなりました。

② 同第2号に関して

- ▶個人の価値が見出され尊重されるようになってきた歴史的経緯を記述することによって、その重要性を知り、自他の価値と能力を互いに認め合う姿勢を身に付けることをめざしました。
- ▶創造や自主・自立の精神を重んじ、それらを育むことができるよう、先人たちが政治・経済・文化活動や技術開発などあらゆる分野で不断の努力を重ねて職分を全うし、よりよい社会・生活と豊かな人間性を追求してきたことを系統的に記述しました。

③ 同第3号に関して

- ▶民主主義や基本的人権、男女の平等などが先人たちの努力によって歴史的に獲得されたものであることを記述し、それらを重んじ発展させていくことの大切さを理解するとともに、その実現のために主体的な取り組みや他者との協力を重視する態度を養うことをめざしました。
- ▶社会の発展や公共の福祉に尽くしてきた先人の歩みを記述し、社会に主体的に参画することの必要性を理解できるよう配慮しました。

④ 同第4号に関して

- ▶ 歴史の中では時に多くの人命が危機にさらされるできごとがあったこと、また人々がそれを克服してきたことをも記述し、生命の重大な価値に気付かせ、それを尊ぶ姿勢と心を培うことができるように配慮しました。
- ▶ 歴史を通じて人々が多様な自然環境の中でそれを利用・開発しながら生活を営んできたことを記述し、これを通して自然とのかかわり方を考え、共生をはかる態度を育成することをめざしました。

⑤ 同第5号に関して

- ▶ 日本や世界の諸地域が、互いに関連しながら特色ある伝統と文化を形成し発展させてきたことについて、写真や地図などを多用しながら記述し、さまざまな歴史的遺産と伝統・文化の価値を見出し、それらとそれらを生み出した地域や人々に敬愛の念をもち、尊重する態度を養うことをめざしました。
- ▶ 日本を含む世界の歴史上の人々が自己の郷土や国家の発展に尽力してきたことを記述し、自他の国や文化・宗教などを互いに尊重し国際理解・異文化理解に努める態度を養うとともに、国際社会の諸課題と恒久平和のために能動的に取り組む姿勢を培うことができるよう配慮しました。

2 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1編 歴史の扉	高等学校の歴史学習の導入として、身近な事象を題材に歴史的視点や基本的技能を身につけることができるよう意を用いました（第1号）。	第1編全て
	世界におけるスポーツの歴史や日本の伝統的なスポーツとその広がりを取り上げ、自他の文化や郷土に親しみをもつことができるよう配慮しました（第5号）。	4～5ページ
	歴史資料を用いて考察し、自らの考えを構築するとともに、他者の意見や考えを尊重し、協力して課題の解決に向かうことができるよう配慮しました（第2号・第3号）。	6～7ページ
第2編 近代化と私たち	日本と世界の近代化の歴史について、そこに現れたさまざまな社会的課題や成果を丁寧に記述し、資料や問いを通じて生徒のより深い理解と多角的な考察を促すことに意を用いました（第1号）。	第2編全て
	官民を問わずさまざまな人が将来を見据えながら自主的・自律的に改革や運動、学問、勤労に邁進して新時代を築いた様子を、具体的な人物や事例を挙げながら記述しました（第2号）。	8～9、11、20～21、26、28～35、40～41ページ

	<p>民主主義や基本的人権など自由と平等を尊重する動きが広まったことを記述し、政治・経済や教育・文化などあらゆる面において改革が行われた経緯と今日に至る近代社会の歴史的意義を捉え、公共の福祉と主体的な社会参画のあり方について考察することができるよう配慮しました（第3号）。</p>	20～21, 28～35, 40～41 ページ
	<p>産業の発達や世界の一体化にともない開発が進められたこと、一方でそれが環境の悪化をもたらすことなどに触れ、自然とのかかわり方や環境保全について理解と考察を深められるよう留意しました（第4号）。</p>	14～17, 20～21 ページ
	<p>新たな航路の開拓や世界商業の進展により世界の一体化が促進された一方、列強により世界分割が行われ、各地の伝統的な産業や文化が変容を迫られていったことを記し、平等かつ平和的な国際関係の構築と相互の価値観や伝統を尊重することの重要性に気付かせることに意を用いました（第5号）。</p>	第2編全て
第3編 国際秩序の変化や大衆化と私たち	<p>二つの大戦期と戦後における国際秩序の変化や大衆化の歴史について、そこに現れたさまざまな社会的課題や成果を丁寧に記述し、資料や問いを通じて生徒のより深い理解と多角的な考察を促すことに意を用いました（第1号）。</p>	第3編全て
	<p>この時代に現代の私たちの生活様式の基礎が形成されたことや、戦争・対立、世界経済の動向がもたらす生活や労働への影響を記述し、生徒が自らの生活のあり方や、それにかかわる現代的な社会問題を客観的に捉え直す契機となるよう配慮しました（第2号）。</p>	第3編全て
	<p>民主主義や人々の権利・平等などが、戦争や植民地支配・差別などによって著しく制限された様子を記すとともに、差別の解消や権利の獲得に積極的に取り組んだ人々やその運動について記述しました（第3号）。</p>	53, 56～67, 74～75, 78～79, 82～85, 88～89 ページ
	<p>戦争や対立により多大な人命が人為によって失われ、国土の荒廃や環境破壊にもつながる兵器が使用されたことなどを記述し、生命と自然を尊重する心を育成できるよう意を用いました（第4号）。</p>	54～55, 78～79, 82～83 ページ
	<p>二つの大戦が起こった経緯を考察することにより、対話の重要性に気付かせ、平和的な国際社会の構築と発展を希求し、それに寄与する姿勢を育むことができるよう配慮しました（第5号）。</p>	第3編全て
第4編 グローバル化と私たち	<p>冷戦期におけるグローバル化の歴史について、そこに現れたさまざまな社会的課題や成果を丁寧に記述し、資料や問いを通じて生徒のより深い理解と多角的な考察を促すことに意を用いました（第1号）。</p>	第4編全て

	世界各地で民主化がはかれるとともに、経済成長などを通じて労働や生活状態に変化と向上が見られたこと、また、新たな問題も生まれてきたことを記述しました（第2号）。	第4編全て
	植民地の独立や民主化、差別解消などの実現に向けて、様々な運動や改革が行われてきたことを記述し、それらの維持とさらなる発展のために、他者と協力して工夫を重ねることの必要性とその課題について考察できるようにしました。	101～105, 112～113, 120～123, 130～131 ページ
	産業の発展や戦争、核開発などにより自然環境や人々の健康を脅かすできごとがあり、克服の試みがなされてきたこと、一方で未解決の問題があることも記述しました（第4号）。	102, 106～107, 112～113, 116～117 ページ
	これからの国際社会における課題や、これからの日本が国際社会において果たすべき役割を生徒が主体的に考察し、国際社会の平和と発展に主体的に関わっていく自覚と責任をもつ契機となるよう、配慮しました（第5号）。	122～135 ページ

3 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ▶ **判型をA4判として資料を豊富に、かつ大きく掲載**し、資料を用いた探究活動を円滑に進められるよう工夫しました。
- ▶ 高校生の発達段階を考慮し、**平易で簡明な文章**を心がけました。また、学習の取り組みやすさに配慮し、本文では**人名を青色の文字**としました。
- ▶ **ユニバーサルデザインに配慮**し、できる限り多くの生徒にとって読み取りやすい教科書となるよう意を用いました。ユニバーサルデザイン・フォント、カラーユニバーサルデザインに考慮した配色を、全編を通じて取り入れました。
- ▶ 各単元には**扱っている地域を示すツメ**や、**年代・世紀を示すスケール**を配置し、どの地域・時代を学んでいるのかをわかりやすく示しました。
- ▶ **巻末に補足資料や用語解説**、**日本の歴代内閣総理大臣一覧**、**年表**などを付し、学習の助けとしました。
- ▶ **人物にはさくいんにおいて生没年または在位年を付記**し、学習の助けとしました。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
102-99	高等学校	地理歴史科	歴史総合	
※発行者の番号・略号	※教科書の番号・略号	※教科書名		
35・清水	歴総 705	私たちの歴史総合		

1 編修上特に意を用いた点や特色

① 資料と問いにもとづき主体的に探究する

▶写真や文字史料, 地図, 年表などの**多様な資料を豊富に掲載**するとともに, それらを活用して思考・判断・表現することを促す**問いを随所に配置**し, 主体的・対話的で深い学びの実現をめざしました。

▶歴史的な見方・考え方を働かせ, **歴史事象を多面的に考察**できるよう, 資料を精選しました。

▼p.16~17

③ 18世紀のイギリスとアジア、アフリカ

18世紀のイギリスでは、中国産の茶やインド産綿織物などアジアの豊かな産物が人気を集めた。一方で、大西洋三角貿易により、イギリスは多大な利益を手にした。イギリスがこなったグローバルな貿易は、各地にどのような変化をもたらしたのだろうか？

図1 18世紀前半のイギリスの喫茶風景

17世紀後半、イギリス国王チャールズ2世に似いだポルトガル出身のキャサリン王妃が、輸入のさいに大量の砂糖と一緒に茶を持参したことをきっかけに、イギリスの上流階級の間で、喫茶の風習が大流行した。



喫茶が流行するにつれて、イギリス国王への進呈

中国は産物が豊富で、国内にないものはない。ただ中国に産する茶、陶磁器、絹などは、西洋各国の必需品であるから、広州において貿易をゆるし、必需品を手で、中国の意思をほごしようおせているだけである。

図2 イギリスのマカートニー使節団と中国(清)の皇帝

1792年、マカートニーはイギリス政府の命で清に派遣された使節団の全権大使を務めた。広州1港にこぎつた貿易要求を清の朝廷に伝える(自由貿易)を要求したが、拒否された。



図1 18世紀前半のイギリスの喫茶風景

図2 イギリスのマカートニー使節団と中国(清)の皇帝

図3 18世紀の大西洋三角貿易

北アメリカ、アフリカ、南アメリカ、ヨーロッパ

図4 ヨーロッパ人による奴隷狩りの様子

18世紀末のイギリスにとって、中国の清朝ほどの貿易相手だったのだろうか？

イギリスの輸出品目や輸出額の増加から考えられることは何だろうか？

図5 イギリスからアフリカへの輸出品の構成

年	インド産綿織物	イギリス産綿織物	その他
1739~1749年	41.6%	41.5%	151万ポンド
1769~1779年	21.4	13.9	19.1
1799~1808年	29.6	26.9	9.1

イギリス産毛織物 1,075万ポンド

④ アダム・スミス「国富論」

1776年、アダム・スミスは『国富論』を著した。これは自由競争の経済学を論じた。自由競争の経済学は、自由競争の経済学を論じた。自由競争の経済学は、自由競争の経済学を論じた。

図6 サトウキビのプランテーション

カリブ海のアンティグワ島での様子。

図7 環大西洋圏の地域別奴隷輸入数

年	イギリス領北アメリカ	イギリス領カリブ	オランダ、デンマーク、フランス領	スペイン領	ブラジル	その他	計
1501~1600	0	0	0	170,400	29,200	700	200,300
1601~1700	15,100	311,300	180,400	225,600	782,200	6,190	1,520,790
1701~1800	297,600	1,811,800	1,359,700	146,000	1,990,700	7,620	5,613,420
1801~1866	78,360	195,100	133,100	793,500	2,061,380	149,900	3,371,340
計	391,060 (3.7%)	2,318,200 (21.7%)	1,673,200 (15.6%)	2,995,500 (28.3%)	4,863,480 (45.8%)	164,410 (1.5%)	10,705,850 (100%)

これは綿織物に輸入された奴隷の数の数倍あり、実際にアフリカから輸出された黒人の総数は、1250万人におよんだと推定されている。数世紀にわたっておこなわれた奴隷貿易によって、アフリカの人口は激減し、アメリカの人口構成などに大きな影響を与えた。

図8 ヨーロッパの産業革命と大西洋三角貿易

15世紀末からポルトガル、スペインが大西洋を介してアジアにいたる航路を開拓すると、西欧諸国はアジア、アフリカや、アメリカ大陸に進出した。17世紀には、オランダがヨーロッパの経済活動の中心となり、江戸時代の日本とも貿易をおこなった。17世紀後半には、イギリスとフランスが、競うように北アメリカとカリブ海の西インド諸島に植民地を築いた。アメリカ大陸とヨーロッパとを結ぶ大西洋貿易で、熱帯、亜熱帯の植民地で生産された商品作物が、おもに取引された。これらの商品作物は、ヨーロッパ人向けにプランテーションで集約的に生産された。18世紀には、西インド諸島の砂糖やコーヒー、北アメリカ南部のタバコなどがヨーロッパ市場に大量に流入し、ヨーロッパ人の生活を一変させた。プランテーションでの労働には、当初は先住民があてられた。しかし、過酷な労働と感染症のためにその人口が激減すると、かわりに西アフリカから多数の黒人が奴隷として輸入された。ヨーロッパの奴隷商人は、アフリカの部族間の対立に乗じて、その部族を奴隷として購入した。こうして、ヨーロッパ、西アフリカ、アメリカ植民地を結ぶ大西洋三角貿易が、18世紀のヨーロッパ諸国による世界商業活動の中心となった。

▶大きな紙面で写真や図を読み取りやすくし、生徒自身が資料から新たな発見をしたり、新たな問いを立てたりすることができるようにしました。

▼p.50~51

第3編
国際秩序の変化と大衆化と私たち

産業革命に始まる技術革新で大量に生み出された商品は、人々のくらしをより便利で快適にした。一方で生活スタイルが画一化し、人々の考え方や行動は新聞、ラジオ、広告などのマス・メディアから流れる情報に大きく影響されるようになった。こうした人々の暮らしは大衆とよばれた。

第1章 生活や社会の変化を読み取ってみよう

世界一の商店街誕生！～アメリカ、ニューヨークの五番街～

五番街は、ニューヨーク、マンハッタン島の中心をほぼ南北につらぬく大通り。19世紀末から高級ブランドの店やデパート、富裕層の邸宅が集まり、1920年代からは超高層ビルも次々に建設された。人々を魅了し、都市生活を充実させる、世界有数のショッピング街である。

▼1933年の五番街

500五番街ビル (60階建て 212m)

五番街のおもな超高層ビル
エンパイアステートビル 1931年完成
500五番街ビル 1931年完成
ロックフェラーセンター 1939年完成

50 第1章 生活や社会の変化を読み取ってみよう

Check!

- 資料から生活様式の変化について考えよう
▶技術革新が人々の生活や社会に与えた影響
▶20世紀前半ごろの都市や人々の様子
▶人々が求めたこと、もの
- 疑問に思ったことをもとに、調べてみたいことをあけてみよう

2 洗濯機の広告(1936年、アメリカ)

「1日1セント以下の電気代で、手で洗うよりも早くきれいに洗える」

新製品によって、くらしはどう変わった？

3 ナイロン製ストッキングのセールに集まった女性たち(1940年、ニューヨーク)

解説 20世紀に入ると、ナイロンやポリエステル、ゼニールなど、今では身近な素材の開発も進んだ。

4 アメリカ合衆国の自動車登録台数

年	登録台数(万台)
1905	0.1
1910	0.5
1913	1.0
1916	2.0
1918	3.0
1920	5.0
1924	10.0
1928	15.0

解説 フォードは1913年に2ドル39セントだった社員の日給を毎年5ドルに引き上げた。これにより労働者の働く意欲とともに、消費者としての購買力も高まった。

5 フランスの航空会社の広告(1950年)

51

②「今」を考えるための歴史的思考力を培う

▶身近な事象や現代的な課題にもとづいて歴史を考察することにより、生徒の興味・関心を高め、**歴史を学ぶ意義を実感**できるよう、問いや資料に工夫をこらしました。

③ 国際協調体制

20世紀初頭まで、戦争は国家間の対立を解消するための有効な選択肢の一つであった。しかし、民衆のくらしをまき込んで大きな犠牲をもたらした第一次世界大戦は、その考え方を大きく転換させた。戦争にたよらずに国家間の対立を解消する試みはどのようにして生まれたのだろうか？

◀p.58

資料5 日本における有権者数と投票者数の推移

年号	選挙年	回数	有権者数	投票した人	投票しなかった人
1890	1	1	450,872		
1892	2	2	434,594		
1894	3	3	440,113		
1894	4	4	460,483		
1898	5	5	452,637		
1898	6	6	502,292		
1902	7	7	982,868		
1903	8	8	958,322		
1904	9	9	762,445		
1908	10	10	1,590,045		
1912	11	11	1,506,143		
1915	12	12	1,546,411		
1917	13	13	1,422,126		
1920	14	14	3,069,148		
1924	15	15	3,288,405		
1928	16	16	12,405,056		
1930	17	17	12,651,785		
1932	18	18	12,041,963		
1936	19	19	14,303,780		
1937	20	20	14,074,088		
1942	21	21	14,594,287		

(総務省「目で見る投票率」平成29年)

資料6 風刺画「一千万人の昼寝」(1925年)

解説 右上には、「あんなに大騒ぎをしてヤツを買った普通選挙、買ってしまったら別段食べたくもないやうな新有権者」と書かれている。(北沢寅夫画)

探究しよう Q4

20世紀初頭の日本の投票率やその変化は、どのようなことを物語っているのだろうか？自分の住んでいる地域の近年の投票率を調べて、比較してみよう。

▶資料5⑤

◀p.65

探究しよう Q4

20世紀初頭の日本の投票率やその変化は、どのようなことを物語っているのだろうか？自分の住んでいる地域の近年の投票率を調べて、比較してみよう。

▶資料5⑤

▶コラムページでは現代や高校生にもつながる話題を取り上げ、「今」を歴史的視点から捉え直すとともに、**自分も歴史的存在であると気づくことができるように**しました。

◀p.27

もっと知りたい
産業革命とブラスバンド

18世紀までの金管楽器

音楽系部活動の花形、吹奏楽部はブラスバンドとよばれることもあります。ブラスバンドは金管楽器と打楽器で編成されますが、吹奏楽は「管楽器と打楽器のみの合奏、すなわち弦のないオーケストラ」(『新版吹奏楽講座』)なので、両者は異なります。管楽器は有史以来、動物の骨や角、木や金属などを材料とし、戦争や儀式で用いられました。では、金管楽器といえは何を思い出すでしょうか。まずは、トランペット。そして、トロンボーン、ホルン、チューバ、コルネットもあります。金管楽器はマウスピースを口にあって、**唇の振動で鳴らす楽器**です。

反乱労働者たちのバンド (1907年, イギリス)

歴史のなかの16歳
満蒙開拓青少年義勇軍

満州農業移民

満州への農業移民は、1936(昭和11)年、**広田弘毅内閣が国策として**かかげた「20か年100万戸送出計画」により本格的に始まりました。この計画は、20年後の満州国の人口を5000万人と予想し、その1割にあたる500万人を農業移民で満たすというものです。農業での自立が困難な5段以下の零細農家の半数にあたる100万戸を20年かけて満州に移住させれば、1戸あたり5人の家族構成と計算して500万人になるという計算にもとづくもので、満州国の日本人人口を増加させること、対ソ戦に備えた人口資源を確保すること、内地の農業人口を減少させることがねらいでした。

訓練生は「日輪兵舎」とよばれる宿舎に郷土を同じくする小隊(約60人)単位で生活し、内務訓練、農業訓練、教練、武道などさまざまな訓練を受けました。「日輪兵舎」が300棟も建てられた内原は、「満州移民の聖地」といわれました。

満蒙開拓青少年義勇軍募集ポスター

③ **歴史学習を生徒のこれからに生かす**

- ▶ 公民としての資質を養うため、細かな知識を羅列するのではなく、小・中学校での既習事項や日常生活に根ざした**知識を活用しながら思考を深める**ことに重点をおきました。
- ▶ グローバルな世界を生きる生徒に向けて、従来の日本史・世界史の別なく広く近現代史を捉え、現代世界を構成する**歴史や文化について自分事として理解を深める**ことができるように配慮しました。**日本のできごとをも世界的な観点から理解**できるよう工夫しました。
- ▶ 時間的・空間的に広い視野を身につけながら、主体的・自律的に社会に参画し、**身の回りにある課題や社会的な課題を見出し解決に向かう力を育む**ことをめざしました。

▼p.24

6 日本の開国とその影響

イギリスの新聞『タイムズ』は、アメリカの日本遠征の記事をたびたび掲載し、『イラストレイテッド・ロンドンニュース』は日本に向けて出港したペリー艦隊の動向を報じている。▶(資料1) **なぜ、世界は日本の開国に注目していたのだろうか?**

▼p.110

資料2 **パンダ来日の新聞記事と中国によるパンダ贈呈先**

乾杯 8億の友好

「だが甘えてはならぬ 喜びの中に戒める声」

田中角栄 周恩来

固く固く結び合う手 両首相、祝杯一氣に干す

探究しよう Q2

パンダはいつ、どのような国におくられたのだろうか?そしてなぜ日本にやってきたのだろうか?▶(資料2)

贈呈された年	贈呈先
1957年	ソ連
1959年	ソ連
1965年	北朝鮮(2頭)
1971年	北朝鮮
1972年	アメリカ(2頭)
1972年	日本(2頭)
1973年	フランス(2頭)
1974年	イギリス(2頭)
1980年	西ドイツ(2頭)

2 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第1編 歴史の扉	A 歴史の扉	4～7ページ	6
第1章 歴史と私たち	(1) 歴史と私たち ア・イ	4～5ページ	3
第2章 歴史の特質と資料	(2) 歴史の特質と資料 ア・イ	6～7ページ	3
第2編 近代化と私たち	B 近代化と私たち	8～49ページ	20
第1章 生活や社会の変化を読み取ってみよう	(1) 近代化への問い ア・イ	8～11ページ	3
第2章 結びつく世界と日本	(2) 結びつく世界と日本の開国	12～27ページ	6
(1) 18世紀までの世界	ア(7)・イ(7)	12～19ページ	3
(2) 工業化と世界市場の形成	ア(4)・イ(4)	20～27ページ	3
第3章 国民国家と明治維新	(3) 国民国家と明治維新	28～47ページ	8
(1) 国民国家と立憲体制	ア(7)・イ(7)	28～37ページ	4
(2) 帝国主義とアジア, アフリカの変容	ア(4)・イ(4)	38～47ページ	4
第4章 近代化と現代的な諸課題	(4) 近代化と現代的な諸課題 ア・イ	48～49ページ	3
第3編 国際秩序の変化や大衆化と私たち	C 国際秩序の変化や大衆化と私たち	50～95ページ	22
第1章 生活や社会の変化を読み取ってみよう	(1) 国際秩序の変化や大衆化への問い ア・イ	50～53ページ	3
第2章 第一次世界大戦と大衆社会	(2) 第一次世界大戦と大衆社会	54～71ページ	7
(1) 第一次世界大戦と国際社会	ア(7)・イ(7)	54～63ページ	4
(2) 1920年代の世界と大衆の時代の到来	ア(4)・イ(4)	64～71ページ	3
第3章 経済危機と第二次世界大戦	(3) 経済危機と第二次世界大戦	72～93ページ	9
(1) 国際協調の挫折と2度目の世界大戦	ア(7)・イ(7)	72～81ページ	4
(2) 世界大戦がもたらしたもの	ア(4)・イ(4)	82～93ページ	5
第4章 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	(4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題 ア・イ	94～95ページ	3
第4編 グローバル化と私たち	D グローバル化と私たち	96～135ページ	22
第1章 生活や社会の変化を読み取ってみよう	(1) グローバル化への問い	96～99ページ	3
第2章 冷戦と世界経済	(2) 冷戦と世界経済	100～115ページ	7
(1) 冷戦と国際政治	ア(7)・イ(7)	100～107ページ	4
(2) 世界経済の拡大と日本	ア(4)・イ(4)	108～115ページ	3
第3章 世界秩序の変容と日本	(3) 世界秩序の変容と日本	116～133ページ	8
(1) 市場経済の変容と冷戦の終結	ア(7)・イ(7)	116～121ページ	3
(2) 冷戦終結後の世界	ア(4)・イ(4)	122～133ページ	5
第4章 現代的な諸課題の形成と展望	(4) 現代的な諸課題の形成と展望	134～135ページ	4
		計	70